

驚くべき神の愛

ヨハネの手紙Ⅰ三章―12節

私たちが神の子どもと呼ばれるために、御父がどれほどの愛を私たちにお与えくださったか、考えてみなさい。事実、私たちは神の子どもなのです。(一)

「見よ、何という愛!」。これが一節の原文の表現です。私たちが神の子と呼ばれるようになるために、父なる神がどれほど大きな愛を与えてくださったのか、その事実を見つめるように、それに驚くようにと呼びかけます。この神の大きな愛を本当に知ったなら、驚かずにはいられないではないかと言わんばかりです。

「お与えくださった」という表現は、過去のみわざの結果が現在まで続いていることを示します。神の愛は神が御子をこの世に送ってくださった時だけでなく、今も変わることなく私たちに注がれているというのです。キリスト者の良き歩みは、この神の大きな愛から生まれます。絶えることのない神の愛が、私たちを変え続けるのです。世の様々なものに目が奪われそうになる中、「見よ、何という愛!」とヨハネが語る神の愛をまっすぐに見つめ、感謝しようではありませんか。